2Sa-5

家計簿からみた生活の長期変化に関する事例研究（第2報）ー資産形成ー

相模女大短大○三宅栄子　東京文化短大　内藤道子　梅花短大　藤井千賀
文教大女短大　三東純子　日本女大家政　宮崎礼子

目的：長期にわたって記録されたＹ家の家計簿記を分析して資産形成状況を追究し、家計変動の内的要因と外的要因とへの対応と家計全体に対する資産の貢献とを明らかにする。

方法：第１報と同一家計の家計簿記を用いた。多額の資産運用を行うようになった35年からは家計簿記を日常生活費計算と資産管理計算とに分離させているので、両者の関係を検討する。また、資産内容、資産形成の過程、資産保有の家計変動要因への影響、等につき当時の社会経済の状況をふまえて検討する。

結果：所有資産は、預貯金、有価証券、不動産であって、しばしば購入している。家庭創設期で家計規模の小さい時代には、預貯金を中心に資産形成をしているが、妻の勤労収入の増加による家計規模の拡大が進むに従って有価証券売買が中心になっている。また、多くの勤労者世帯が退職金で持ち家を購入した時代に若年期に住宅を購入し、家庭基盤の安定を図っている。同時に、社会経済の変動に敏感に反応しながら負債を利用して不動産を主とする資産の拡大を実現している。さらに、資産の運用は次代を担う子供や孫への投資を目的としても行われてもいて、家計管理者の時代を見る目や対応が人的資産をも含めた資産形成の原点となっていることが明らかになった。